

大津町議会文教厚生常任委員会 町の歴史文化関係団体等との意見交換 会議録

1. 日時 令和4年4月20日（水）午前10時00分～
2. 場所 大津町役場2階 町民協働ルーム
3. 出席者 (大津町議会) 6人
委員会 豊瀬委員長、山本副委員長、三宮委員、大塚委員、田代委員
議会事務局 田上次長
(関係団体参加者) 8人
別紙一覧のとおり
(町執行部等) 6人
羽熊教育部長、荒牧生涯学習課長、紫藤生涯学習係長、飯富学芸員、佐藤学芸員
浦田歴史文化伝承館副館長

4. 議題 ①歴史文化伝承館の取り組みについて
②R4年度の町の歴史文化に関する取り組みについて

- 生涯学習課より議題①②について町の令和4年度の取り組みを説明（別紙資料参照）
- ・文化の育成や保存、啓発等にかかる「文化振興費」と、歴史文化伝承館や文化財センターなどを運営するための「文化施設運営費」の2つの予算について説明。
 - ・生涯学習課の本年度の主要事業である「江藤家復旧事業」と「大津町歴史文化伝承館運営事業」の年間計画について説明。

○意見交換

参加者： 町が歴史文化関係にかけた予算に対してどのような成果が生まれているのか気になった。まずは、予算をかける目的として歴史文化を生かしながらどのようなまちづくりを進めていくのかを明確にするべきではないか。

参加者： 歴史文化を生かしたまちづくりを進めるにあたり、具体的にどういうことを中心軸として、どういう組み立て方にして、どういう風に成果を積み上げるのかという議論をして整理した方が良い、町が実施した取り組みについて質疑・意見を繰り返していても代り映えしないのでは。テーマ性のある議論をしながら組み立てていくべきではないか。

「上井手の水とともに生きる町づくりの会」のコンセプトとして、大津は水の町・歴史の町だと考えている、そこに生まれるふれあいを通して町を持続的に発展させるのが基本と思っており、その一環として子供たちの水学習や修学旅行の上井手・下井手散策に協力している。

参加者： 皆が考える問題や課題、アイデアを一旦テーブルに出す（提案する）場を設けてみてはどうか。その後、提案されたものの中から今後のコンセプト

トや方針・方法を決めていくなど、段階的に進めていった方が良いと思う。

参加者： 大津町の住民としてもっと大津町の歴史を知ってもらって魅力を発信していかねばならないと考える。そのために発信するリーダー（ガイド）を育てるための活動をしている。その活動を町にも協力していただき町全体に広げていきたい。

参加者： 今、修学旅行のトレンドが学習をする旅行に切り替わっている。その中で熊本県は水をテーマに全国にプレゼンを行っている。大津町は水を大切にできてそこに歴史が生まれてきたため、PRすることで大津に来てもらう可能性は高まるのではないかと考える。それを受けるためのガイド育成を官民協働で取り組むことでまちづくりの特徴の一つとなり、より人を呼び込むことが出来る。ただ受けるだけでなく、積極的にプレゼンをして呼び込んでいくべきと考える。

参加者： 歴史文化で人を呼び込むことで何か生み出す、あるいは金を落とすとかは期待しない方が良いと考える。今まで県内の活動を見てきた中では、自分たちの歴史（誇り）を伝えること自体が楽しみ（原動力）となっており、それで良いと思う。

今までの町の取り組みは住民の協力が得られているものではなかった。しかし、今後は職員も住民も一緒になって積極的に取り組んでいかねばならない。今後の取り組みについては、商業観光課や総合政策課も一緒になって考えていくべきではないか。

大津町の水の歴史では、上流の取入口が最も重要と考えている。

参加者： 大津町まちづくり基本条例には町の文化や伝統を守り将来に引き継ぐとあるが、今まで歴史の町としてどのようなまちづくりを行ってきたかの総括をすべきではないか。それにより新たに課題を整理し、ビジョンを示していくべき。今は、町がどのようなビジョンを目指しているのか見えてこない。

例えば、鶴口橋の架け替えやそれに伴う柳の木の伐採については、町職員の歴史やビジョンについての認識が不足している証拠である。職員はもっと学んでいくべき。

また、毎回会議にて発言しているが何も変わっていないため、もっと意見を受けて提案していくべき。

参加者： 今回の意見交換会の意見を受けて、町職員には大いに施策を展開していただきたい。また、今回のような意見交換の場は継続していただきたい。

委員： 歴史文化伝承館の目指すべき成果や、ガイド育成をどの様に協働して進めていくのか、今後の具体的な予定も含め町執行部の意見を伺いたい。

執行部： 町の振興総合計画に基づき、歴史文化伝承館の目標としては、まず来館者数を増やし、町民の方に町の歴史を知っていただくことを目標としている。そのために、今年度より副館長の配置や新規学芸員の採用など職員の体制を整備したところである。ガイド育成などの取り組みの方向性や今後のスケジュール等については、今から皆さんと協議しながら、意見を取

り入れつつ決めていきたいと考えている。

参加者： 計画に掲げた目標を達成するためには、町執行部だけでなく、住民側もどのような協力が必要なのかを整理した方がよいのでは。

参加者： 今後、協働して一歩先に進むためには、今までの意見や今後の進め方について整理検討するための場を設けた方がよいのではないかと。

参加者： 大津町に住んでいる人は、大津町には何もないと言われるが、町外から来た私にとってはたくさんの魅力があり、もったいなく感じる。大津町に長年住んでいる人でも上井手のことをよく知らない人が多い。知らないことについて学ぶことや語ることは楽しさにつながり、楽しいことが広まれば、それにより人も集まってくるのではないかと。

参加者： まずは、皆の考えの提案だけを行う会議を設けたらよいのではないかと。また、今後話し合いを進めていくうえでは、ファシリテーターや意思決定者などの役割を明確にして進めてはどうだろうか。

委員： その他にご意見があれば伺いたい。

参加者： 個人的には、地蔵祭などのイベントを通してたくさんの方に楽しんでもらいたいと思う。

参加者： 大松山の上に加藤清正の顕彰碑があるが地震で倒れたままになっており、元に戻してほしいと町に伝えていた。また、不動谷川の石橋も撤去しようとの話があると伺ったが残して欲しい。そのように町に意見を伝えていくことも大事である。町側も出た意見を整理して、積極的な対応をするようお願いしたい。ただし、要望するばかりでは役場にも限界があるので、私達自身もできるところから手伝っていかないといけないと思う。

執行部： 歴史文化伝承館には素晴らしい資料があるが活かさきれていない状況。もっと定期利用者や一般客に利用していただくよう、様々な環境を整備していく必要があると感じている。

今後、どのような整備を進めるのか、予算化に向けて検討していかなければならない。まずは少人数ごとのグループで自由に意見を出し合う場を設けていきたいと考えている。

執行部： 課内でも情報共有を積極的にしていきたい。また、協働の在り方、地域の意見を大事にしていきたい。

委員： 歴史・文化については、教育や福祉に比べ、町民の関心の薄いところかもしれないが、郷土愛、地域愛を育てていくため広く伝えていく必要あると感じている。

委員： 今回まで数回の意見交換会を行ってきたが、最終的に成果が出せるよう引き続き取り組んでいきたい。

より良い伝承館の在り方や大津町の歴史・文化をどう発信していったら良いかを詰めて次回に提案させていただきたい。

できる部分は積極的に進めていけるようにしていきたい。

委員： 今後の会の進め方が課題。前に進めるために会の組み立て方を考えていきたい。参加者から出た意見を否定しないことを共有して進める必要がある。

委員：多くの方に大津町の歴史を広めていくよう協力していきたい。

委員：今後は、商業観光課などの関係課も含め連携していくことが重要と考える。

参加者：もし次回の会を開催するのであれば、どのような形で開催するのか、だれを呼ぶのかを今日の参加者のうち数人で事前に打ち合わせしてから実施して欲しい。

5. 閉会 午後0時00分

(別紙)

関係団体参加者一覧

1	大津町文化財保護委員	村下氏
2	上井手の水とともに生きる町づくりの会	内田氏
3	上井手の水とともに生きる町づくりの会	千田氏
4	フリーペーパー編集者	川野氏
5	明日の観光大津を創る会	松坂氏
6	熊本県文化財保護指導員	上田氏
7	文化財談話会	岩下氏
8	大津町地域おこし協力隊	川野氏